

豊かな村の財政を支えた共有林

田井小上棟式の

写真が語る山の歴史

筑波山麓は、古代より豊かな土地だった。文明の栄えるはるか前、人々は水も作物も豊富なこの土地で長



田井小学校上棟式（大正7年）

らく過ごしてきたのに違いない。こは、近世に入っても、経済的に豊かだった。筑波山の一部は田井地区の共有地となっており、共有林は近世以降、たくさんの富を生み出した。現在の普門寺にあった田井小学校は、

大正6年（1917）の暴風雨によって倒壊した。そのため翌7年に現在地において新校舎を建設するわけであるが、その材料は共有林が使われ、地元民が協力した。そのときの貴重な写真が、森田源美さん宅に保存されている。筑波山をパツクに、誇らしげな大工さんが居並ぶ姿は壮観だ。その建設費は、1万9733円（現在額で2億円くらい）であり、当時としてはかなり立派な建物であった。茨城県で一番立派な小学校が出来たと誇った人もいたらしい。このことから、田井村に豊富な資金力があつたことが分かる。江戸時代の村有林は神郡村、白井村の入会地であった。それが地租改正で一度政府のものになったものが

地域住民の努力によって、明治14年（1881）に神郡が共有地に、さらに明治33年（1900）に白井村も共有地に加わり、大正3年（1914）二村合併に伴い、160町歩の田井村有林が誕生した。明治25年から同30年にかけては、65万本が植林された記録が残っている。

立木売却による収入は、大正6年2050円、大正11年1903円、大正12年6000円となっている。大正12年の収入金は、村財政の26%にもなったという。豊かな財政に支えられ、夏でも冬でも計画的な農業が出来たこの地域は、大正8年（1919）、優良耕作地として認められたという。また、村で火事になった家がなければ、7間×4間分の建築材を無償で提供したという。こうしたことから、昭和期においては経済厚生モデル村に指定された。

近年の共有林は、山を利用しなくなり、荒れ果てた状態となっている。山道も藪となり人が通ることも出来ない。かつて、人々が手入れしていた筑波山系は、かなり美しい所だったという。自然環境や里山を求める人々が増えているらしいから、少しずつでもかつての「すそみのさと」が復活してくれることを望みたい。

榎田智司（六所地区）
（木村嘉一郎さんのお話を参考にしています）

夏の着物に衣替え 神御衣祭

六所神社六所皇大神宮跡地

六所集落の北側の山懐に、六所神社跡地がある。六所神社は平安期から近代末期まで、筑波山の祭祀を司ってきたとされている由緒ある神社で、六所皇大神宮とも呼ばれている。六所神社は多くの謎を秘めたまま明治41年に廃社となり、祭神は蚕影神社に合祀、御神体は宗教学人に奉遷された。平時の跡地は清掃も行き届いていて、往時を偲はせる静かな佇まいをみせている。



木立に囲まれた六所神社跡地

筑波山神社の祭事である御座替祭は、明治年間に筑波山神社が建てられるまでは、この六所神社で盛大に行われていた。古来より、筑波山は神体山として崇敬されてきた。古書には、古代の参道は、この六所神社から夫女方原を経て女体峰に続いていたと記されている。

筑波山神社拝殿の東側に建つ赤宮（白枝社、春日社は、六所神社と同形に建てられたことから、この赤宮社殿と同じ社殿が、六所神社に建て

袷から単衣に着せ替える神御衣の儀



稲葉誠一（六所地区）

られていたことになる。創立は定かではないが、明治3年に、風で倒れた杉の木が石鳥居を壊し、鳥居の中から出てきた鏡に、「石鳥居 征夷大将軍坂上田村麻呂建立」の刻文字が見られたとのエピソードが残されており、このことから、七世紀のころに鎮座したものと推定されている。4月8日（日）、六所神社跡地において、御神体を預かる都内の宗教学人により、御神体の衣を冬の着物（袷）から夏の着物（単衣）に着せ替える「神御衣祭」の神事が厳かに執り行われた。六所神社が廃社されてから百年を経過したことを記念し、天照大神の御神体を一日だけ郷里に遷座して行われたもので、古式ゆかしい伝統行事を見ようと、多くの人たちが神社跡地を訪れた。百年ぶりに東京から里帰りされた天照大神の御神体、はたしてどのような想いを抱いてお帰りになられたのだらうか。

4.5月

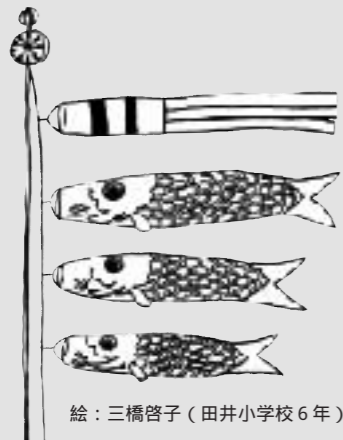
すそみ歳事記

お話し：櫻井誠さん

聞き手：里山建築研究所 居島 上野

- 4月
 - 1日 筑波山神社の御座替り祭
 - 3日 大師参り講（新四国桜川八十八カ所霊場巡りの日）
 - 10日 大師の月命日の21日は毎月お参り。
- 5月
 - 2日 八十八夜・苗代種まき 御幣をはさんだ二股のヌルデの枝を苗代の水の入口付近に立て、苗代に種まき。

はじめの午の日（旧暦）端午の節句匂いが強い菖蒲と蓬の束を魔除けとして家の屋根にあげる。菖蒲湯に入る。



絵：三橋啓子（田井小学校6年）

田植えが終わるとサナブリ。田植えで立った苗を3把とり、そのうち16本を並べて根元に糠をふりかけ、オエビスサマにかけて豊穰祈願する。

インフォメーション

紫の会 草木染作品展
5月3日（木）5日（土）10時～16時 / 田井ミュージアムにて / 入場無料 / 筑波山系の樹木や草などで染色した布により制作した着物・洋服・カバン・小物などを展示します。紫の会は筑波山周辺の約30人のメンバーを中心2000年7月より月1回活動。筑波ふれあいの里（つくば市農業体験宿泊施設）の染色教室も企画
問）029-867-0709（菊地）

すそみの田植え ご一緒に！
（場所はいつでもつくば市神郡）
5月12日（土）10時～15時 / 参加費900円（昼食付き） / 沢水だけで無農薬の米づくり。生きものとの共存をめざす棚田です。生きものに詳しいスタッフの説明もあります。申込者に案内と地図を送ります。小雨決行。
問）029-863-5151
NPO法人つくば環境フォーラム

5月20日（日）10時～15時 / 参加費大人1000円、子ども500円（昼食付き） / 紙マルチを使った無農薬の米づくり、黒米や赤米を手植えします。あぜで大鼓演奏、田楽舞いもあります。幼児、大人、障害のある方、どなたでも。持ち物は着替え、雨天中止。
問）029-866-2192
NPO法人自然生てんじょうクラブ

石のことならおまかせください。

灯笼、墓石、石塀など
お気軽にご相談ください。

森田石材

つくば市小田 4829
029-866-1837

